



職員全体勉強会

日時: 2026年4月15日(水)

4月は

災害時に発生しやすい感染症と対策

講師: 木下病院 木下雄介院長

手指衛生と災害時の感染対策

講師: SARAYA メディカル事業本部営業部 平賀泰地氏



今回は、災害時における感染症対策について基本的な知識を身に着けることを目的として職員勉強会を開催しました。講義では、災害時に起こりやすい感染症について理解し、その対策を学びました。さらに、後半では、手指衛生の基本的な知識や災害時のときこそ感染対策が大事であること、初動対応の理解を深める機会となりました。

1. 災害時に発生しやすい感染症と対策

院内感染を防ぐためには、①感染に対する正しい知識を持つ、②感染症に罹らない、ひろげない、③感染症に対して、適切に対応する、④予防接種で予防すること

(1) 感染経路別予防策の対象となる病原体

特定の感染経路(空気・飛沫・接触)を持つ病原体と予防策について



空気感染	対象: 結核、麻疹、水痘 対策: N95 マスクの着用、陰圧個室管理
飛沫感染	対象: インフルエンザ、風疹、新型コロナウイルス、流行性耳下腺炎 対策: サージカルマスクの着用、患者の個室管理、定期的な換気
接触感染	対象: MRSA、ノロウイルス、疥癬など 対策: 手袋、ガウンの着用、器具の専用化、患者の個室管理

(2) クラスタ発生時 BCP (業務継続計画)

基本方針として、①職員の安全確保、②患者・利用者の安全確保、③医療・介護サービスの継続があげられました。そして、発生時の対応フローチャートに沿って、初動対応、感染拡大防止対策、医療提供体制等が紹介されました。災害時に対応できるよう感染対策についてしっかりと身に着けておく必要があると理解しました。



2. 手指衛生の重要性

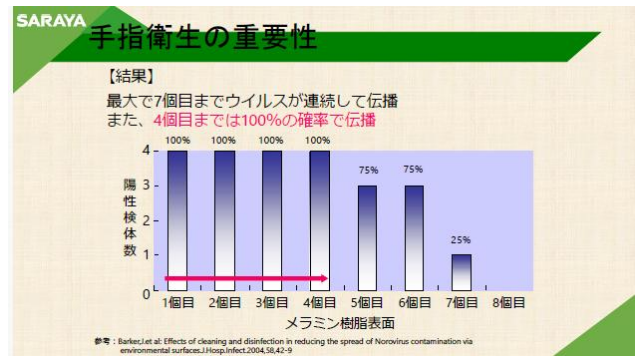
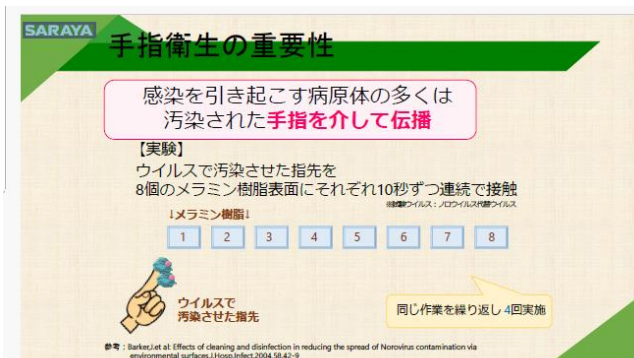
感染を引き起こす病原体の多くは汚染された手指を介して伝播することの実験が紹介されていました。

【実験】

ウイルスで汚染された指先を 8 個のメラニン樹脂表面にそれぞれ 10 秒ずつ連続で接触

【結果】

最大で 7 個までウイルスが連続して伝播。また、4 個目までは 100%の確率で伝播



3. 災害時の感染対策のポイント

(1) 自然災害時の感染対策のポイント 7 つ

- ①手指衛生の励行とうがい
- ②入り口・トイレなど感染対策ポスターの提示
- ③咳・くしゃみが出る人への咳エチケットの徹底
- ④感染症伝播が起こりやすい共同トイレの衛生維持
- ⑤居住区のスペース確保とストレス反応への対応
- ⑥感染症罹患者の把握と対応の徹底
- ⑦清潔な食品管理と食品衛生の徹底

7 つのポイントについての講義がありました。



管理できない
トイレは感染源になる

(2) 災害時のトイレの運用と感染対策

- ★災害時のリスク
- ★断水で水洗不可⇒汚物が滞留
- ★細菌・ウイルス増殖⇒感染リスク増加

基本対応

- 通常トイレは早期に使用中止・閉鎖
- 携帯トイレ・簡易トイレへの切り替え
- 汚物は密閉保管

【トイレの備蓄個数の目安】 (内閣府防災情報より)

- ・短期の場合：ベッド数 20 床または外来患者 50 人につき 1 基
- ・長期の場合：ベッド数 10 床または外来患者 20 人につき 1 基

全体を通して、感染対策の手洗いの基本から、災害時の感染対応を幅広く学ぶことができました。日常の実践が災害時の対応につながるので

平時からの習慣化が重要。今後も現場での実践につなげていきたいと考えています

